

「非定型的なBSE」感染牛の対応等について
(10月8日現在)

1 経緯

- (1) 9月29日(月)に茨城県のと畜場で処理された牛が、エライザ検査で陽性(厚生労働省から30日午後4時40分頃連絡あり)。

〔当該牛の概要：肉用牛(ホルスタイン種)、雄(去勢)、23か月齢〕

直ちに、出荷農場の所在県である栃木県及び飼養農場の所在県である福島県は、当該牛を出荷及び飼養した農家が飼養している同居牛の移動・出荷の自粛を要請。

- (2) 厚生労働省は、エライザ検査陽性牛の確認検査結果を検討するため、10月6日(月)17時から「第13回牛海綿状脳症(BSE)の検査に係る専門家会議」を開催。

この専門家会議において、当該事例については、「非定型的なBSE」と判断された。

- (3) 当該牛のと体等は、と畜場において保管していたが、診断を受けて、現在、焼却中。

2 当該牛の関係農場等

当該牛は出生後複数の農場を移動。

- (1) 生産(出生)農場

調査中(栃木県下の4農場まで特定)

- (2) 哺育農場

栃木県大田原市

(平成13年10月25日～平成14年5月12日まで)

- (3) 肥育農場

福島県双葉郡葛尾村

(平成14年5月12日～平成15年9月27日まで)

- (4) 出荷前一時けい留農場

栃木県那須郡南那須町

(平成15年9月27日～平成15年9月29日まで)

3 対応状況等

厚生労働省の専門家会議において、「非定型的なBSE」と判断されたことから、10月7日正午、BSE対策本部を開催。

また、同本部長からの指示を受け、同日夜刻には、専門家からなる「BSEに関する技術検討会」を開催し、今後の防疫対応等について検討を行った。

第19回牛海綿状脳症（BSE）に関する技術検討会 の概要について

1 日時

平成15年10月7日（火）18:00～19:40

2 場所

農林水産省消費・安全局第5会議室

3 会議概要

（1）今回の非定型的なBSEについて、品川委員ほかから説明がなされ、意見交換が行われるとともに、伝達性や病原性等の性状を明らかにするには、動物接種試験等が必要であるとの見解が示された。

（2）今回の非定型的なBSEの発生原因・発生経路に係る調査については、異常プリオン蛋白のタイプが従来のもものと異なることを踏まえ、あらゆる可能性を想定するとともに、肉用牛での発生であることを踏まえ、乳用牛と肉用牛の飼料の違い等も考慮して調査を実施していくべきとの見解が示された。

（3）今後の防疫対応のあり方については、今回の検討会での助言を踏まえ、事務局で再度検討し、あらためて本検討会で議論することとされた。

4 その他

当該牛については、患畜とするとともに、同居牛については、当面、患畜となるおそれのある家畜として隔離し、もう少し知見を収集した上で対応を判断することとする。

牛海綿状脳症（BSE）に関する技術検討会委員名簿

阿部 亮	日本大学生物資源科学部動物資源科学科教授
小野寺 節	東京大学大学院農学生命科学研究科教授
片峰 茂	長崎大学副学長
金子 清俊	国立精神・神経センター神経研究所疾病研究第7部長
熊谷 進	東京大学大学院農学生命科学研究科教授
品川 森一	(独) 農業技術研究機構動物衛生研究所 プリオン病研究センター長
筒井 俊之	(独) 農業技術研究機構動物衛生研究所 プリオン病研究センターリスク要因研究チーム長
藤田 陽偉	国際獣疫事務局（OIE）アジア太平洋地域代表
三浦 克洋	(独) 農業技術研究機構動物衛生研究所安全性研究部長
山内 一也	財団法人日本生物科学研究所主任研究員
横山 隆	(独) 農業技術研究機構動物衛生研究所 プリオン病研究センター病原・感染研究チーム長